

# 2022年3月期 第1四半期決算説明会

**HUSTLER**  
JSTYLE



**スズキ株式会社** 2021.8.5

## 第1四半期実績

… 増収増益、前々期に対しては減収営業利益減益

(億円)	当期 ( '21/4-6)	前期 ( '20/4-6)	増 減		補足	前々期 ( '19/4-6)	増 減	
				増減率				増減率
売上高	8,454	4,253	+4,201	+98.8%	3期振り増収	9,075	▲621	▲6.9%
営業利益 (利益率)	545 (6.4%)	13 (0.3%)	+532	—	3期振り増益	627 (6.9%)	▲82	▲13.1%
経常利益 (利益率)	1,108 (13.1%)	145 (3.4%)	+963	+666.0%	3期振り増益	724 (8.0%)	+384	+53.1%
当期純利益 <sup>※</sup> (利益率)	848 (10.0%)	18 (0.4%)	+830	—	3期振り増益	405 (4.5%)	+443	+109.2%

- ・売上高増加 … 前年同期が新型コロナウイルス影響により大幅減だった為、増収
- ・営業利益増益 … 売上増加、特に在庫車の販売促進や為替差益等により増益
- ・経常利益増益 … 金融収支改善380億円等により増益
- ・当期純利益増益 … 前年同期が新型コロナウイルス関連損失154億円計上に対し、当期は旧豊川工場跡地売却益180億円等により増益

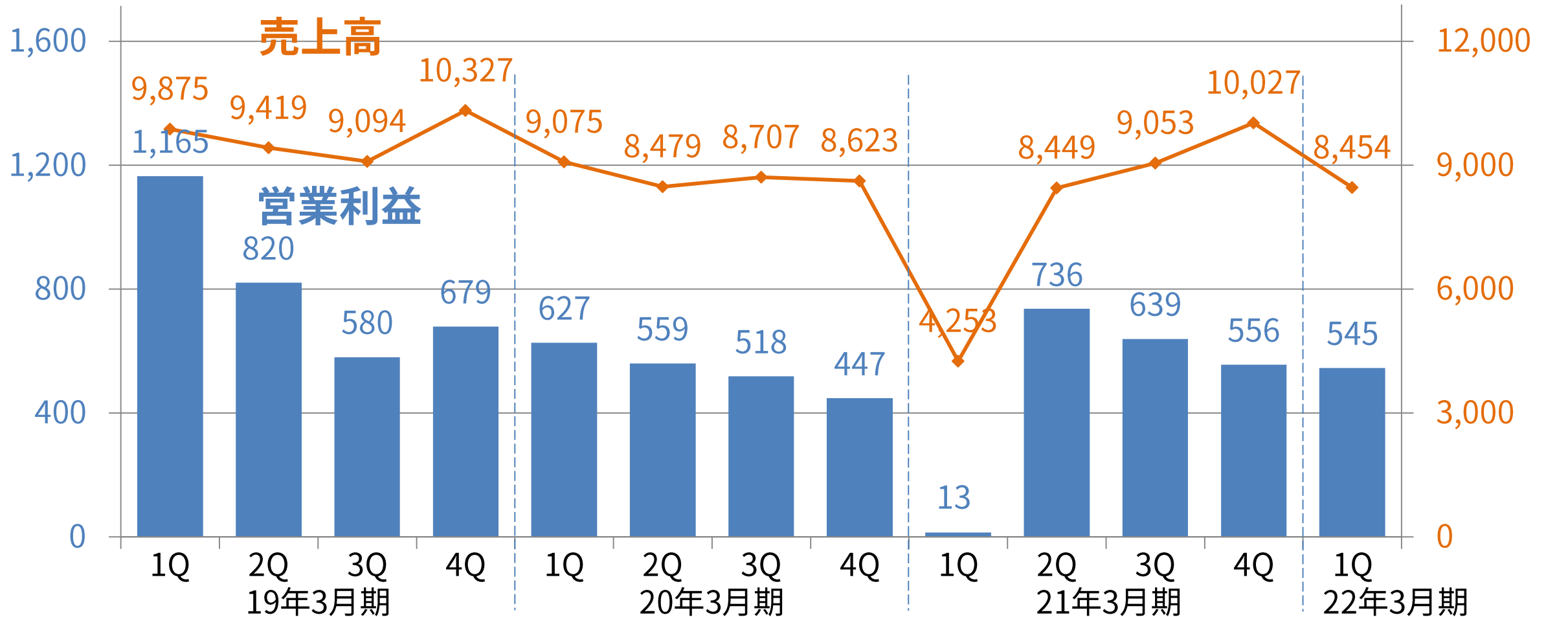
世界 販売	四輪車	624千台	263千台	+360千台	+136.8%	インド、日本、欧州等で増加	738千台	▲114千台	▲15.5%
	二輪車	363千台	275千台	+89千台	+32.3%	インド、中国等で増加	456千台	▲93千台	▲20.3%

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

## 四半期毎の業績推移（億円）

(営業利益)

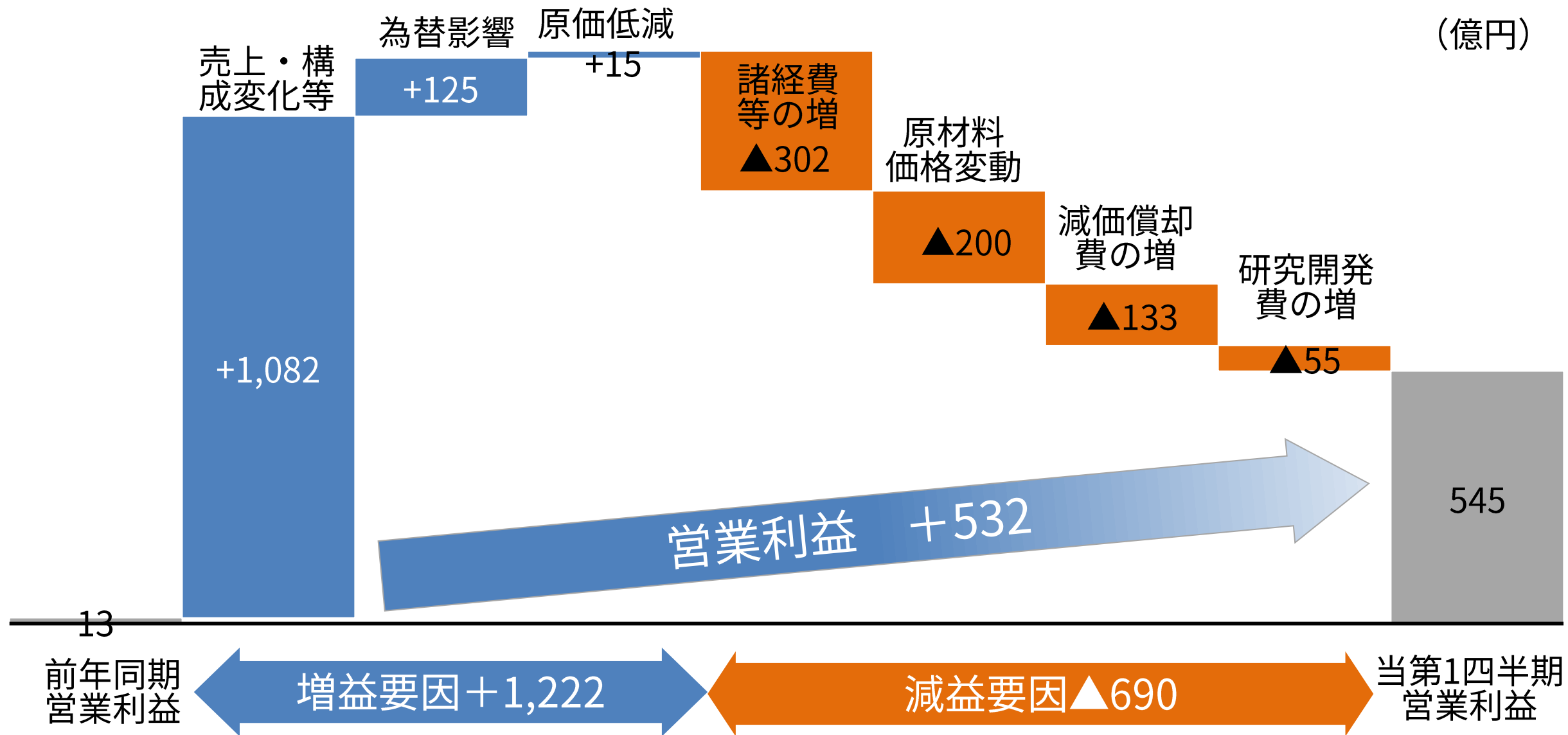
(売上高)



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	2,629	2,038	+591	61	50	+11	8	9	▲1	31	27	+4	2,729	2,124	+605	
自 社	2,431	1,917	+514	61	50	+11	8	9	▲1	31	27	+4	2,531	2,003	+528	
O E M	198	121	+77										198	121	+77	
海外計	4,959	1,637	+3,322	514	299	+215	252	193	+59				5,725	2,129	+3,596	+371
欧 州	1,150	558	+592	88	72	+16	70	47	+23				1,308	677	+631	+129
北 米	1	3	▲2	68	85	▲17	120	107	+13				189	195	▲6	+5
アジア	3,024	849	+2,175	259	85	+174	32	26	+6				3,315	960	+2,355	+145
インド	2,248	482	+1,766	112	24	+88	2	1	+1				2,362	507	+1,855	+95
//以外	776	367	+409	147	61	+86	30	25	+5				953	453	+500	+50
その他	784	227	+557	99	57	+42	30	13	+17				913	297	+616	+92
総合計	7,588	3,675	+3,913	575	349	+226	260	202	+58	31	27	+4	8,454	4,253	+4,201	+371
内、為替換算影響			+329			+29			+13							+371

注．当期…2021年4～6月期、前期…2020年4～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等



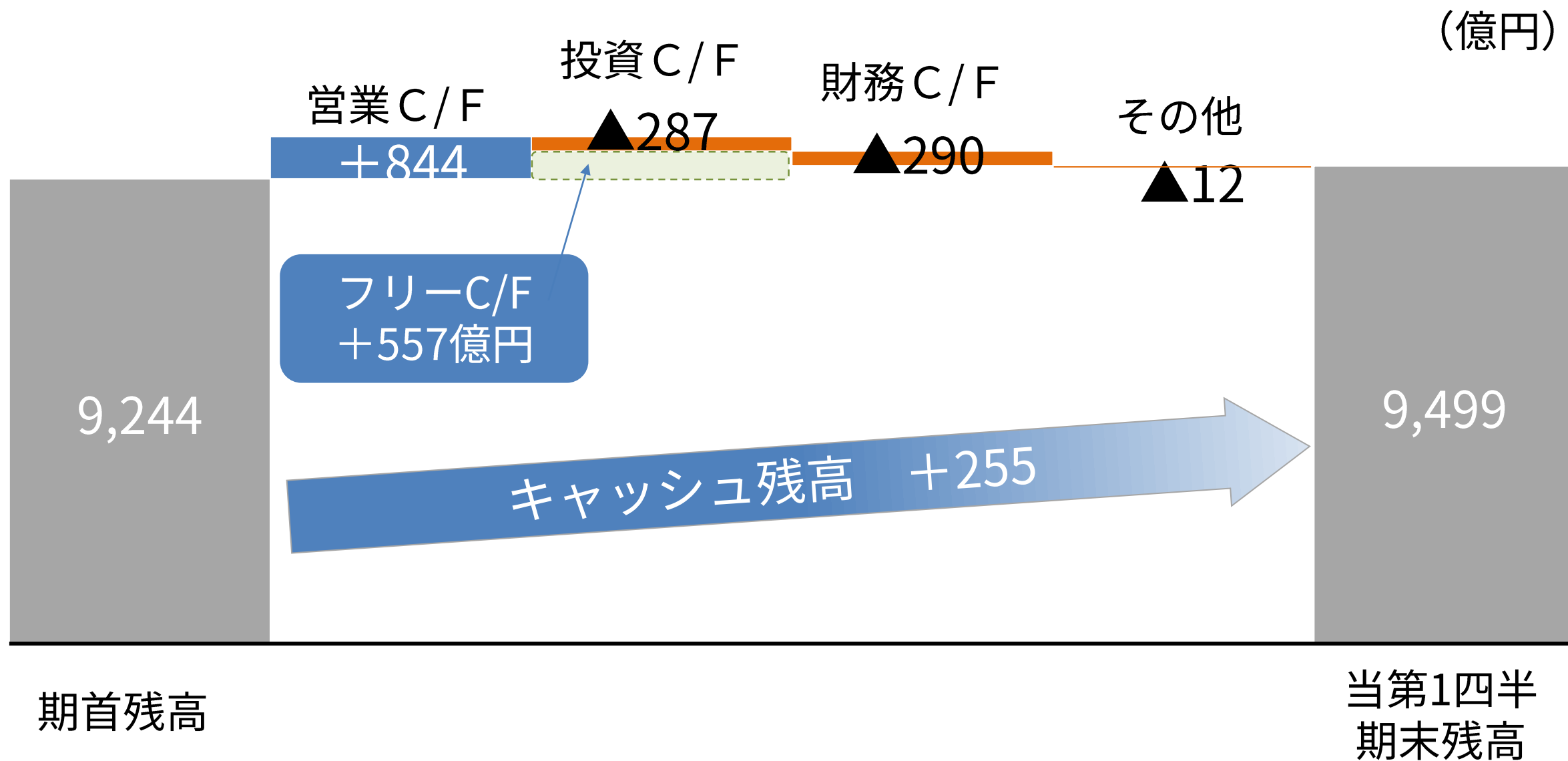


	当第1四半期 ('21/4-6)	前第1四半期 ('20/4-6)	増 減	営業利益 為替影響
ユーロ	132円	119円	+13円	+51億円
オーストラリアドル	84円	71円	+13円	+15億円
南アフリカランド	7.76円	6.02円	+1.74円	+10億円
メキシコペソ	5.47円	4.63円	+0.84円	+10億円
インドルピー	1.49円	1.43円	+0.06円	+8億円
ポンド	153円	134円	+19円	+6億円
ニュージーランドドル	78円	67円	+11円	+6億円
米ドル	110円	108円	+2円	+4億円
パキスタンルピー	0.71円	0.66円	+0.05円	+4億円
その他※	—	—	—	+11億円
計				+125億円

※その他...インドネシアルピア+2億円、カナダドル+1億円他

	当第1四半期 ('21/4-6)	前第1四半期 ('20/4-6)	増減
(当社単独)	111億円	137億円	▲26億円
(子会社)	266億円	206億円	+60億円
設備投資	377億円	343億円	+34億円
減価償却費	343億円	303億円	+40億円
研究開発費	357億円	302億円	+55億円

	当第1四半期末 ('21/6末)	前第1四半期末		前期末	
		('20/6末)	増減	('21/3末)	増減
有利子負債残高	7,639億円	8,216億円	▲577億円	7,708億円	▲69億円
連結子会社数	122社	127社	▲5社	120社	+2社
持分法適用関連会社数	31社	28社	+3社	31社	±0社
従業員数	70,419人	70,292人	+127人	68,739人	+1,680人

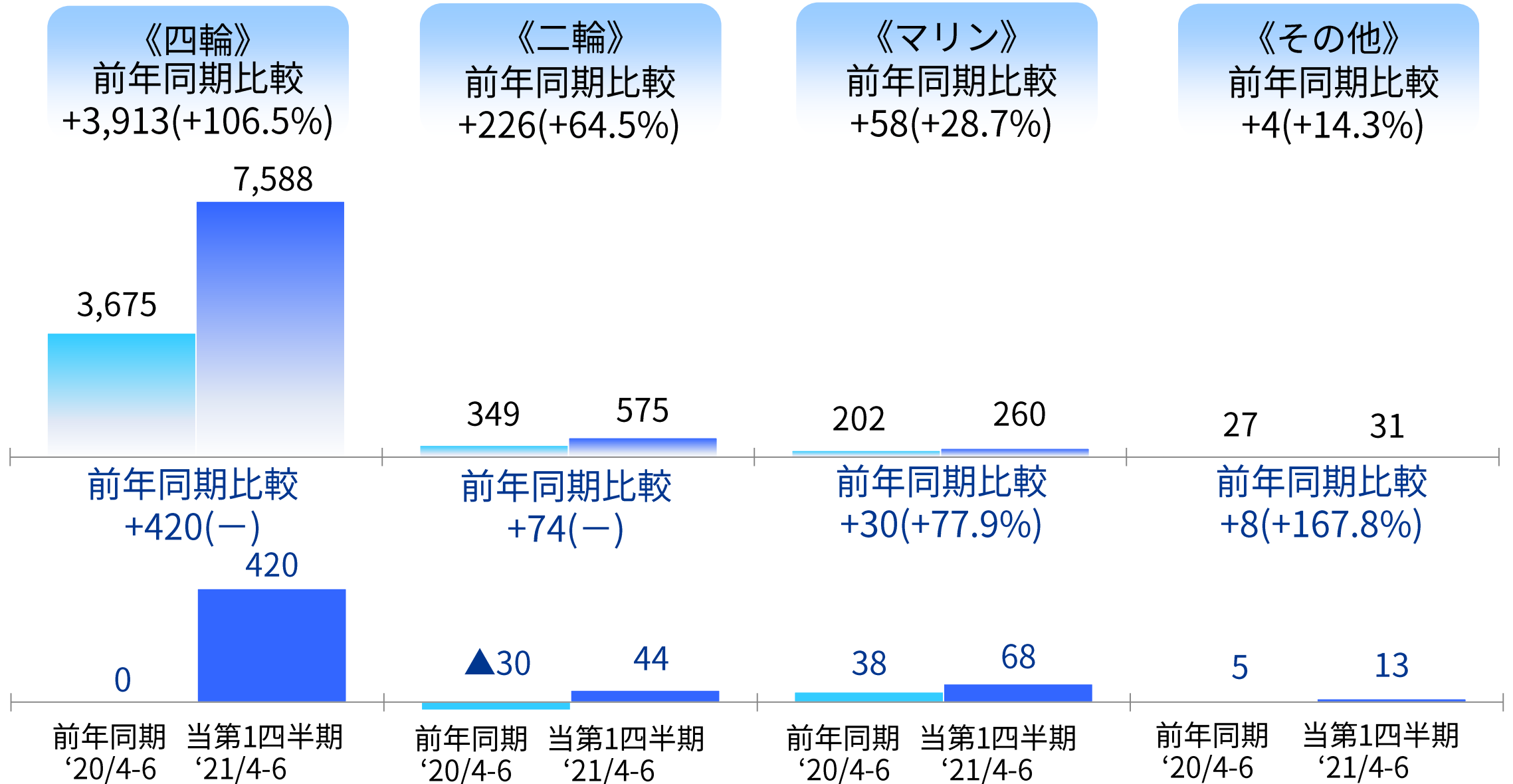




(億円)

売上高

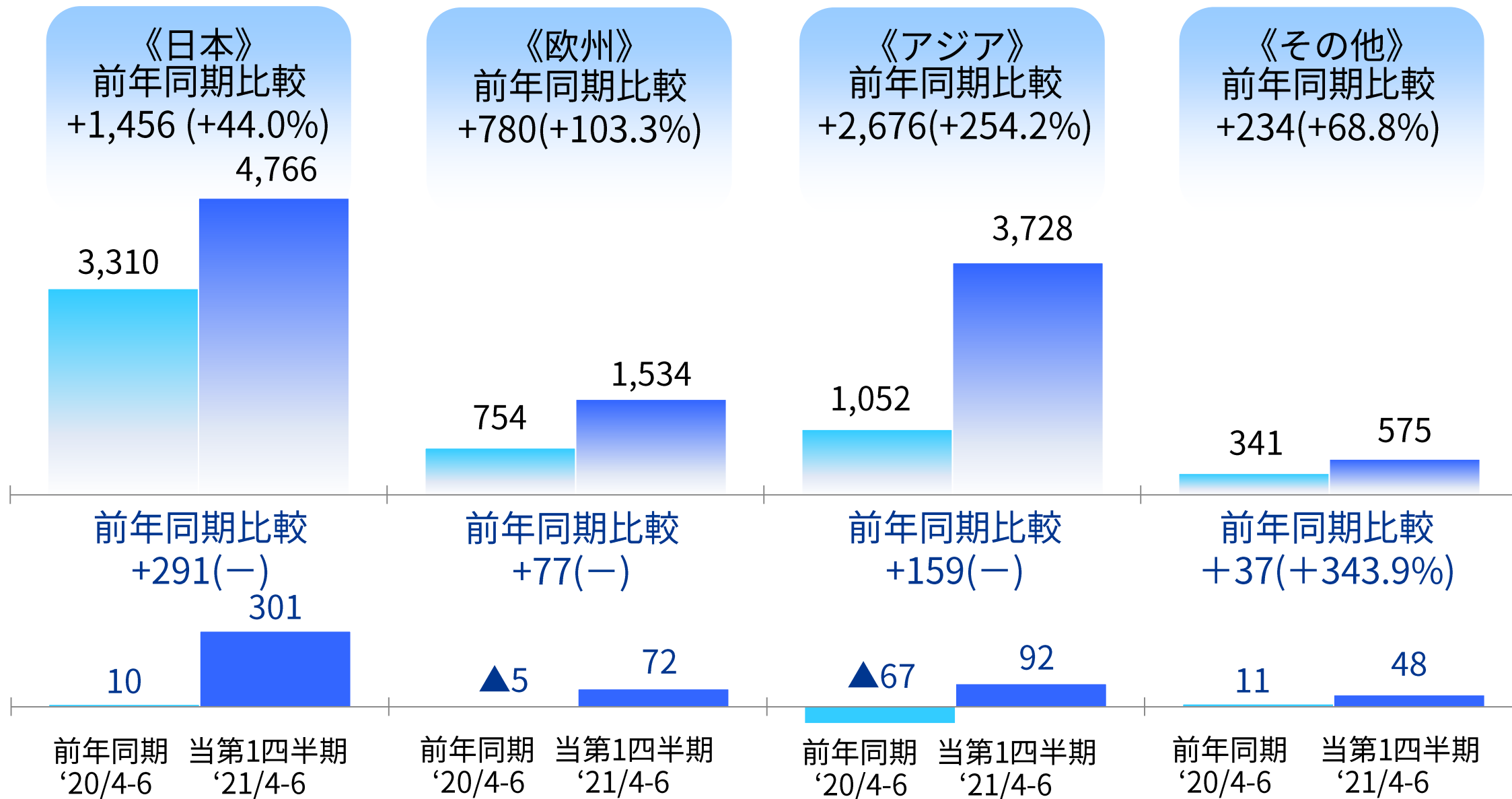
営業利益



(億円)

売上高

営業利益



		ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)		
		当第1四半期	前第1四半期	増減	当第1四半期	前第1四半期	増減
連 結 業 績	売上高	1,680	368	+1,312	2,503	526	+1,977
	営業利益※2	8	▲165	+173	11	▲236	+247
	(利益率)	(0.4%)	(▲44.8%)		(0.4%)	(▲44.8%)	
	税前利益	60	▲37	+97	89	▲53	+142
	(利益率)	(3.6%)	(▲10.0%)		(3.6%)	(▲10.0%)	
	当期純利益	48	▲27	+75	71	▲38	+109
	(利益率)	(2.8%)	(▲7.3%)		(2.8%)	(▲7.3%)	
	為替レート	1.49円	1.43円	+0.06円			
卸 販 売	国内販売※3	308千台	67千台	+241千台			
	輸出※3	46千台	10千台	+36千台			
	合計	354千台	77千台	+277千台			

※1. ルピー建は、7月28日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

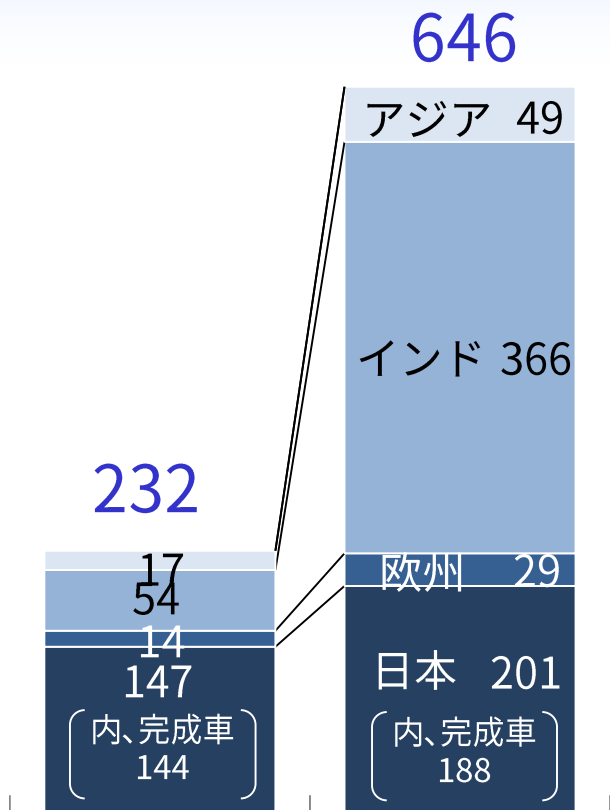
※2. 営業利益は次式により算出  
 Sales of product  
 + Other operating revenues  
 - Total Expenses  
 + Finance costs

※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インディア社はIndAS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしていますので、本数値はあくまでも参考値となります。

## 《生産実績》

+415千台 (+179.0%)  
(千台)

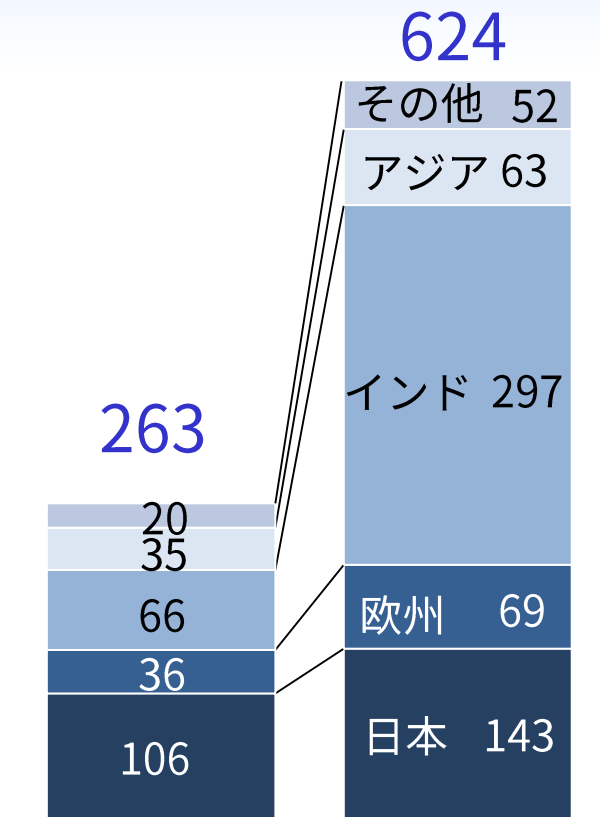


前年同期  
'20/4-6

当第1四半期  
'21/4-6

## 《販売実績》

+360千台 (+136.8%)  
(千台)



前年同期  
'20/4-6

当第1四半期  
'21/4-6

## ●当期の世界販売

・世界販売 624千台 (前年同期比+136.8%)

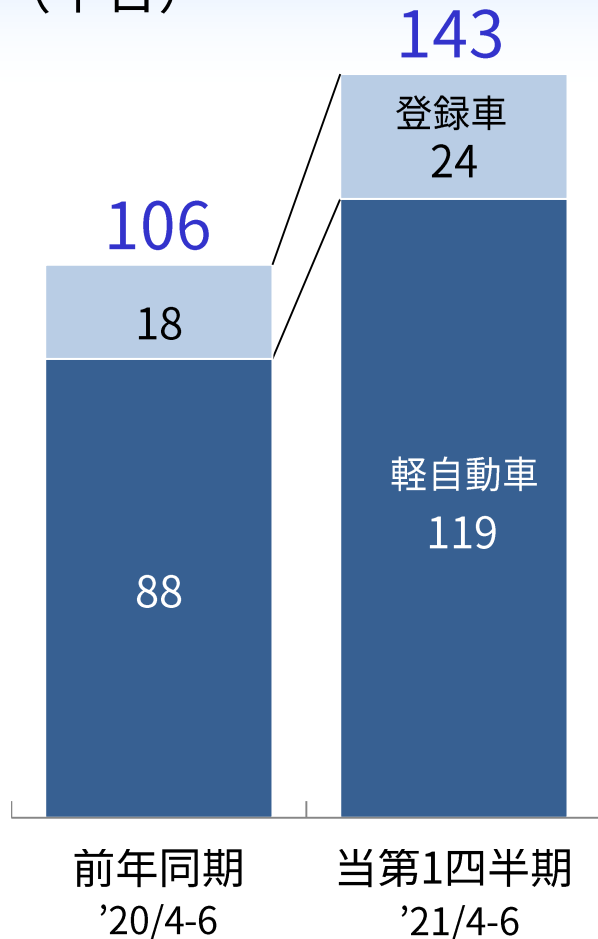
(世界販売の内訳)

インド	297千台	( // )	+349.1%
日本	143千台	( // )	+34.5%
欧州	69千台	( // )	+93.2%
アジア(除インド)	63千台	( // )	+78.0%
その他	52千台	( // )	+158.5%

(インドを除くアジアの内訳)

パキスタン	22千台	( // )	+191.6%
インドネシア	21千台	( // )	+135.2%
タイ	5千台	( // )	+19.7%
その他	14千台	( // )	▲0.7%

《第1四半期比較》  
+37千台 (+34.5%)  
(千台)



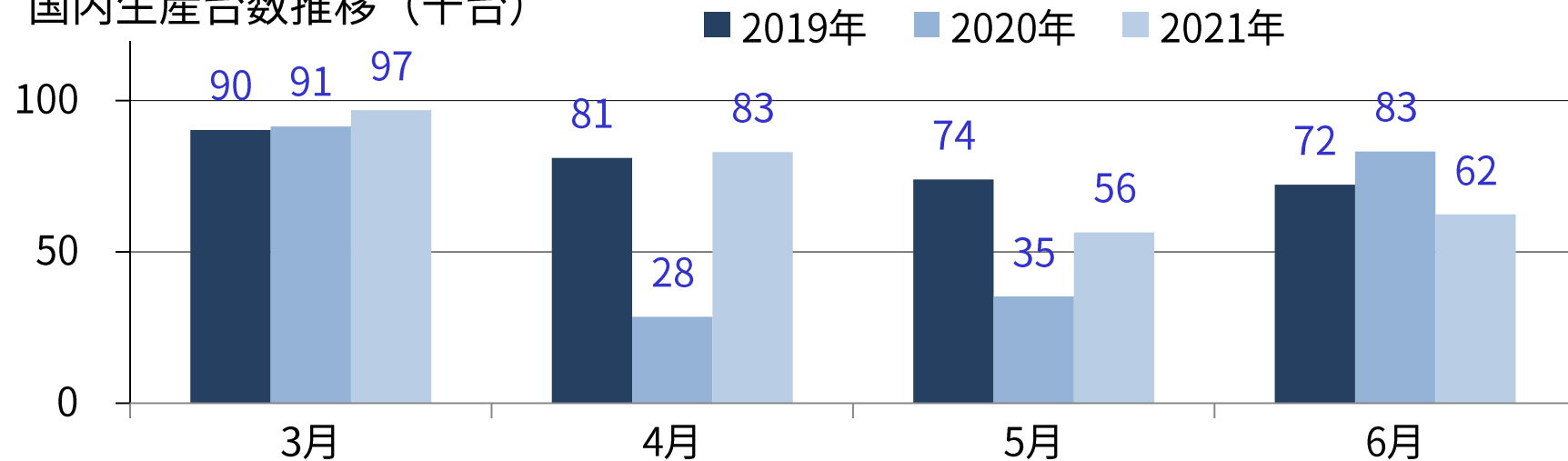
## ●当期の日本販売

- 当期の4~6月販売台数は、新型コロナウイルス感染拡大第1波の影響が大きかった前年同期に対しては回復。
- 一方で当期は半導体不足影響により生産台数が落ち込んだことから、コロナ前の前々年に対しては▲14.6%の減少。

## ●当期の国内工場の稼働状況

- 国内工場では5月以降、部品供給不足による工場の生産停止が発生。

国内生産台数推移 (千台)



## ●当期のインド販売

- ・ロックダウンにより落ち込んだ前年に比べると大幅増となったが、当期も第2波によるロックダウンにより販売店の稼働は大きく制約され、前々年比では▲19.7%。

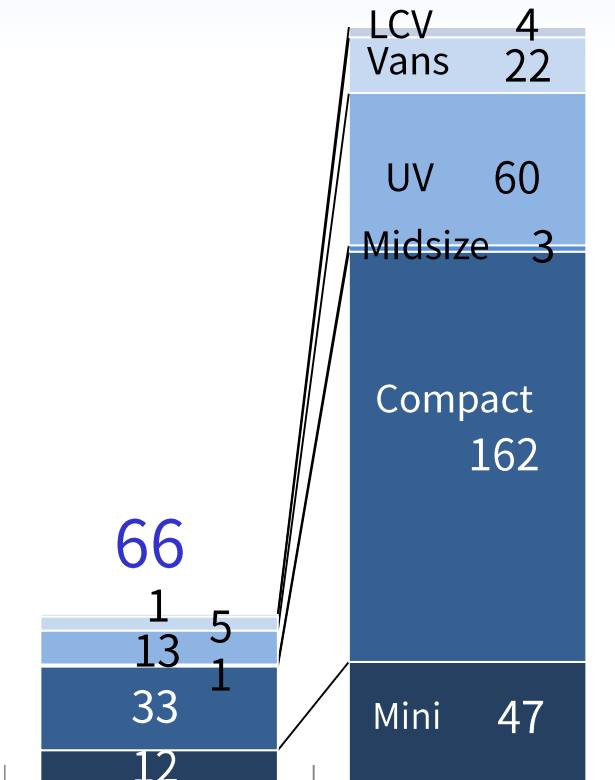
## ●マルチ・スズキ・インディア社、グジャラートに総合病院を開設

- ・CSR事業の一環として、インドのザイダス病院と提携し、グジャラート州シタプールに最新施設を完備した総合病院を開設。2021年4月に開業。



- ・24時間体制で緊急外来に対応、新型コロナウイルスの感染者の入院治療も実施。
- ・現在、50床が整備され、今後100床まで段階的に拡張する計画。

《第1四半期比較》  
+231千台 (+349.1%)  
(千台) **297**



前年同期  
'20/4-6

当第1四半期  
'21/4-6

注. 商用車含む卸販売実績、OEMを除く

※LCV=Light Commercial Vehicles UV =Utilities Vehicles



## ●医療用酸素不足への対応

- 政府による酸素の産業利用禁止命令が発令されたため、生産活動ができなくなったが、6月に予定されていたシャットダウンを前倒しし、影響を最小化。(全工場で5月1日～16日の生産を停止)
- マルチ・スズキから酸素製造装置メーカーへ生産技術の支援を実施。酸素製造装置14基をハリアナ州などの病院に寄付。
- スズキからも酸素製造装置1基と酸素ボンベ200本を支援

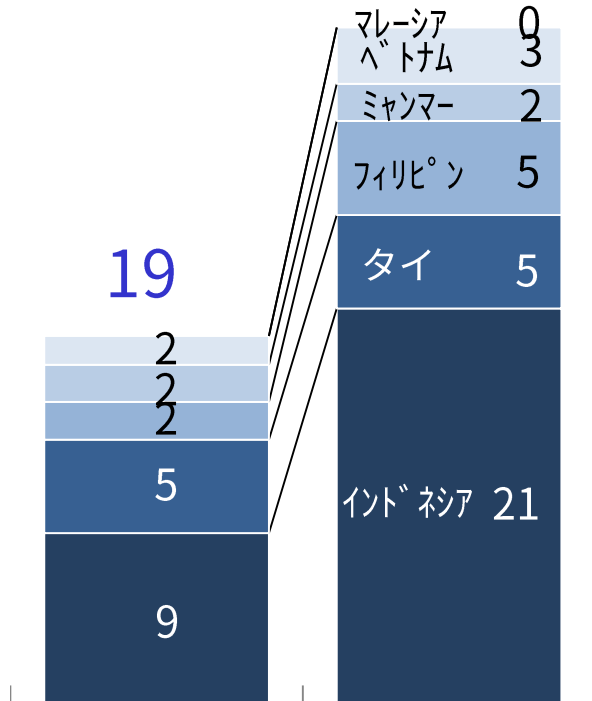


## ●従業員のワクチン接種状況

- 7月中に接種を希望するすべての従業員が一回目の接種を完了。
- 2回目の接種は3か月間隔を空けて実施し、10月末までに順次行う予定。

## 《第1四半期比較》

+17千台 (+89.9%)  
(千台)  
**37**



前年同期  
'20/4-6

当第1四半期  
'21/4-6

## ●当期のアセアン販売

- ・アセアン6カ国※合計で37千台（前年同期比+89.9%、前々年同期比▲11.9%）
- ・インドネシアは3月から実施された自動車奢侈税の減免措置により前年同期比+135.2%となったが、6月下旬以降の新型コロナウイルス感染拡大により、緊急活動制限が発令され、今後の販売への影響が懸念される。
- ・タイは新型コロナの感染が拡大していることから、前年は上回ったものの、前々年に対してはなお下回っている。
- ・フィリピンは前年は上回ったものの、前々年に対してはなお下回っている。
- ・ミャンマーは2月以降、政治経済情勢が悪化したこともあり、新型コロナの影響で大きく減少した前年並みにとどまる。



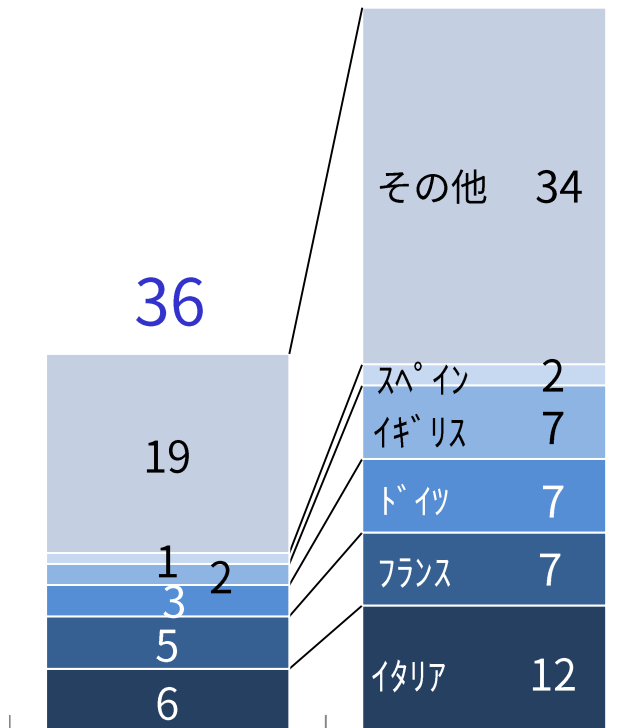
※ アセアン：インドネシア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、マレーシア6ヶ国合計

## 《第1四半期比較》

+33千台 (+93.2%)

(千台)

69



前年同期  
'20/4-6

当第1四半期  
'21/4-6

## ●当期の欧州販売

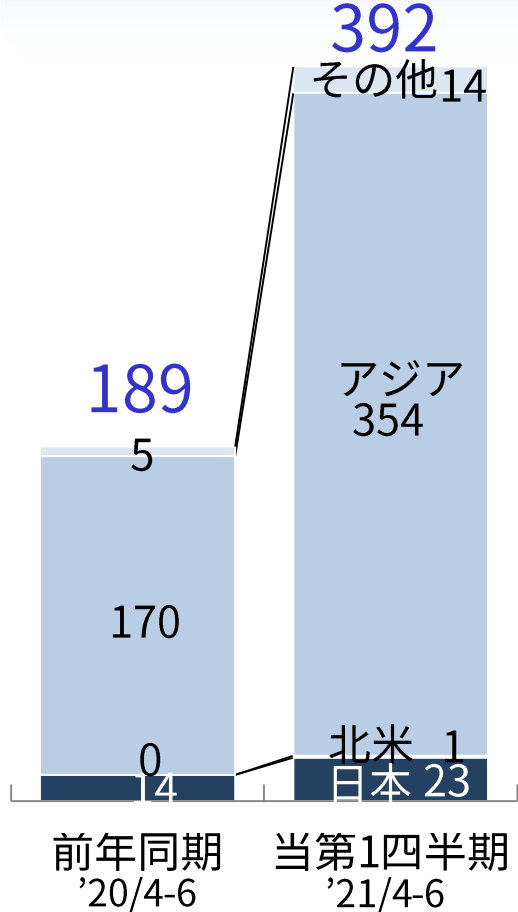
- 欧州合計で69千台（前年同期比+93.2%、前々年同期比▲8.0%）
- ロックダウンにより落ち込んだ前年に比べると大幅増
- 販売店の稼働状況は、各国の外出規制や店舗の営業規制に従っており、営業している場合も感染対策を施し、オンラインでの商談で販売活動を促進。
- ワクチン接種が進み、現在ロックダウン等の厳しい行動制限措置は取られていない。





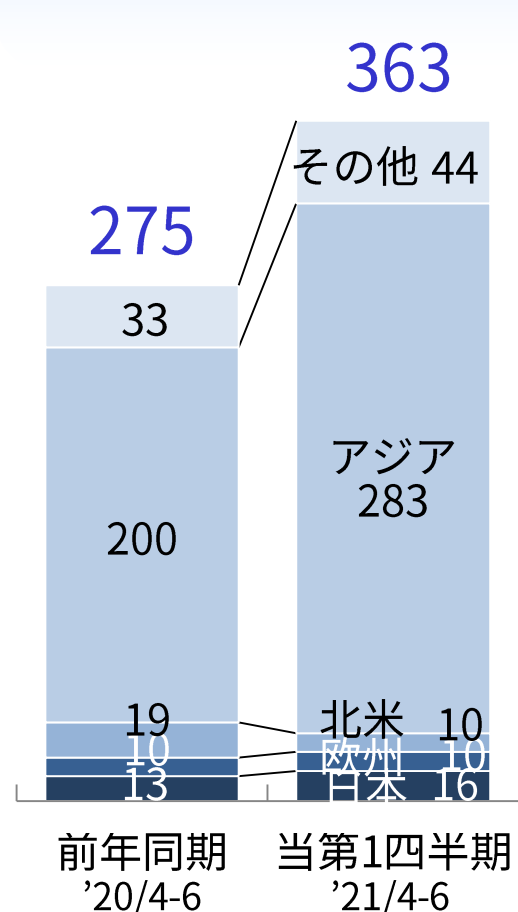
## 《生産実績》

+203千台 (+107.7%)  
(千台)



## 《販売実績》

+89千台 (+32.3%)  
(千台)



## ●当期の世界販売

世界販売	363千台	(前年同期比 + 32.3%)
アジア	283千台	{ // + 41.6%}
日本	16千台	{ // + 28.3%}
欧州	10千台	{ // + 0.3%}
北米	10千台	{ // ▲ 47.6%}
その他 (アジアの内訳)	44千台	{ // + 33.1%}
中国	116千台	{ // + 23.2%}
インド	95千台	{ // + 74.9%}
フィリピン	38千台	{ // + 79.4%}
ベトナム	7千台	{ // + 57.0%}
その他	27千台	{ // + 5.0%}

## ●二輪事業の体質改善について

- ・新型「ハヤブサ」の投入効果、体質改善等により増収増益
- ・中期経営計画での営業利益率目標5%に向けて、引き続き体質改善を進める

## ●新型大型二輪車「GSX-S1000」を発売

- ・アグレッシブかつ前衛的なデザイン
- ・電子制御システムS.I.R.S.（スズキ・インテリジェント・ライド・システム）を新たに搭載
- ・2021年6月より欧州を中心に販売開始、日本は8月発売

	(億円)	当期 ( '21/4-'22/3)	前期 ( '20/4-'21/3)	増 減		補足
					増減率	
連結 業績	売上高	34,000	31,782	+2,218	+7.0%	3期振り増収
	営業利益 (利益率)	1,700 (5.0%)	1,944 (6.1%)	▲244	▲12.6%	4期連続減益
	経常利益 (利益率)	2,200 (6.5%)	2,483 (7.8%)	▲283	▲11.4%	2期振り減益
	当期純利益 <sup>※</sup> (利益率)	1,500 (4.4%)	1,464 (4.6%)	+36	+2.4%	2期連続増益

- ・売上高増加 … 前期は新型コロナウイルス影響があり増収を見込むものの、半導体不足影響は期末まで続く前提
- ・営業利益減益 … 原材料価格上昇、研究開発費増等により減益見通し
- ・当期純利益増益 … 特別利益増（旧豊川工場跡地売却益）等により増益見通し

世界 販売	四輪車	2,711千台	2,571千台	+140千台	+5.4%	半導体不足影響は期末まで続く前提
	二輪車	1,636千台	1,535千台	+101千台	+6.6%	インド、フィリピン等で増加見通し

配当	一株当たり 年間配当金	未定	90円	—	—	今後の状況を見極める為、未定
----	----------------	----	-----	---	---	----------------

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

## <営業利益増減要因>

(億円)	通期予想
売上・構成変化等	+794
原価低減	+280
為替影響	+250
原材料価格変動	▲900
研究開発費の増	▲438
減価償却費の増	▲230
計	▲244

## <設備投資・減価償却費・研究開発費>

(億円)	通期予想	前期比較	
		前期実績	増減
設備投資	2,300	1,709	+591
減価償却費	1,500	1,365	+135
研究開発費	1,900	1,462	+438

## <為替レート>

	通期予想	前期実績	増減	2Q~4Q	営業利益 為替影響 (億円)
ユーロ	129円	124円	+5円	128円	+78
ポンド	151円	139円	+12円	151円	+29
メキシコペソ	5.35円	4.93円	+0.42円	5.33円	+24
オーストラリアドル	81円	76円	+5円	80円	+22
南アフリカランド	7.55円	6.52円	+1.03円	7.47円	+22
インドルピー	1.47円	1.44円	+0.03円	1.47円	+18
パキスタンルピー	0.70円	0.66円	+0.04円	0.70円	+15
米ドル	108円	106円	+2円	107円	+14
ニュージーランドドル	76円	71円	+5円	75円	+9
インドネシアルピア <sup>※</sup>	0.76円	0.73円	+0.03円	0.76円	+8
その他通貨	-	-	-	-	+11
為替影響額 計					+250

※インドネシアルピアは100ルピア当たりのレート



(千台)	生産台数				販売台数			
	予想 (22/3期)	前年実績 (21/3期)	前年実績		予想 (22/3期)	前年実績 (21/3期)	前年実績	
			増減	増減率			増減	増減率
<b>&lt;四輪車&gt;</b>								
日本	843	930	▲87	▲9.4%	564	647	▲83	▲12.9%
欧州	143	110	+33	+29.4%	232	206	+26	+12.9%
アジア	1,891	1,610	+281	+17.5%	1,732	1,560	+172	+11.1%
その他	1	1	+0	+10.1%	183	159	+24	+15.2%
合計	2,878	2,651	+227	+8.6%	2,711	2,571	+140	+5.4%

インド四輪の通期販売見通しは前年比+11%

<b>&lt;二輪車&gt;</b>								
日本	111	67	+44	+66.5%	52	51	+1	+1.8%
欧州	—	—	—	—	31	39	▲8	▲20.0%
北米	4	3	+1	+57.9%	28	46	▲18	▲39.1%
アジア	1,518	1,371	+147	+10.7%	1,354	1,225	+129	+10.5%
その他	54	57	▲3	▲5.3%	171	174	▲3	▲1.7%
合計	1,687	1,497	+190	+12.7%	1,636	1,535	+101	+6.6%

# 2022年3月期 第1四半期決算説明会

GSX-S 1000

スズキ株式会社



..... **将来予想に関する注意事項** .....

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場）などが含まれます。